

10月30日（月）放課後子ども教室にしかわの対話会を開催しました。14名が参加し、子ども教室の現状や課題を解決するための意見交換を行いました。これらの意見を踏まえ、すぐ対応できそうなことや予算を伴うことを整理しながら、町民総がかりで子ども達の未来を育む子ども教室になるよう取り組んでいきます。

放課後子ども教室対話会意見集約

| 項目 | 意見・アイデア |
|----------------------|---|
| 子どもの活動 | 外で子どもが自由に遊べるようにならないか。 |
| | 先生、地域の人々の協力があるから子どもがとてもよく育っている。 |
| | 声を出せない、自由がきかなくなると子ども教室に来なくなる。 |
| | 将棋の相手を地域の人からしてもらおう。 |
| | 理科実験の予算を増やしてほしい。 |
| | やきそばを紫キャベツで作る実験。 |
| | 子どもの行事の希望はあるか。大人の希望でマッチングしている。 |
| | 単発イベントや持ち込み企画の募集。 |
| | 校外活動。自然の家の閑散期を活用する。 |
| | ワイルドジャーニーに窓口をお願いし、ボランティアとのマッチングを図る。いろいろな人を巻き込んでいく。 |
| | 遊びの選択の幅を広げたい。 |
| | 男性視点の遊びもあればよい。 |
| | eスポーツ、学校のプロジェクターを活用した映画鑑賞などこれまでにないものも入れていくのはどうか。 |
| スタッフ | 予算の増額、スタッフの増員。 |
| | スタッフ募集の仕方が悪い。お知らせのすみっこへの掲載、金額掲載がない。 |
| | 子どもがしたいようにすごせる居場所、多様性に対応するにはマンパワーが必要。 |
| | スタッフが増えないと対応できない。 |
| | ボランティアの活用をもっと増やしていく。中高生ボランティア提案イベント（他市町も）ドリームクラブ、地域おこし協力隊、少年補導員の活用。 |
| 制度 | 無料だから声を出せなくなる。無料がよいとは限らない。言えないストレスがある。 |
| | 自然に意見を出せなくなることはよくない。 |
| | 有償にした方がサービスが向上することもある。サービスの対価。 |
| | 福祉（学童）との連携。 |
| | 学童をつくっていく方向はないのか。 |
| | 総合型の子どものプランへの切替えが必要では。 |
| | 新放課後子ども総合プラン国、県、町予算1/3ずつ負担。 |
| | 保育園は19時まで。スタッフのことを考えると一言ない。 |
| 長期休暇なるべくいっぱい開催してほしい。 | |
| 広報 | HPや町報での発信、PRの仕方の工夫。 |
| | 保護者への説明が必要。利用の仕方、マニュアルの明示、利用Q & A。 |